



令和7年度(2025年度)版 地域防災活動の優良事例集



令和 7 年度（2025年度）選定

中央区 (P1 ～ P4)

★事例① 大江校区の取り組みについて

東 区 (P5 ～ P7)

★事例② 画図校区防災の取組

西 区 (P8～P10)

★事例③ 西区 池田校区の取組

南 区 (P11～P12)

★事例④ 城南校区の取り組み

北 区 (P13～P18)

★事例⑤ 川上・西里・北部東校区の取組

大江校区の取り組みについて

地域名 中央区大江校区(自治協議会)

1 地域の概要

中央区大江校区は熊本市の中心部に近接しながらも、**緑豊かで文化的施設が集まる地域**です。

人口は令和7年11月1日時点で10,902人、世帯数は5,908世帯、高齢化率は23.3%です。

白川・大井手用水路の氾濫や地震、台風などの災害リスクが想定されており、**特に水害に対する危機意識が強い地域**です。



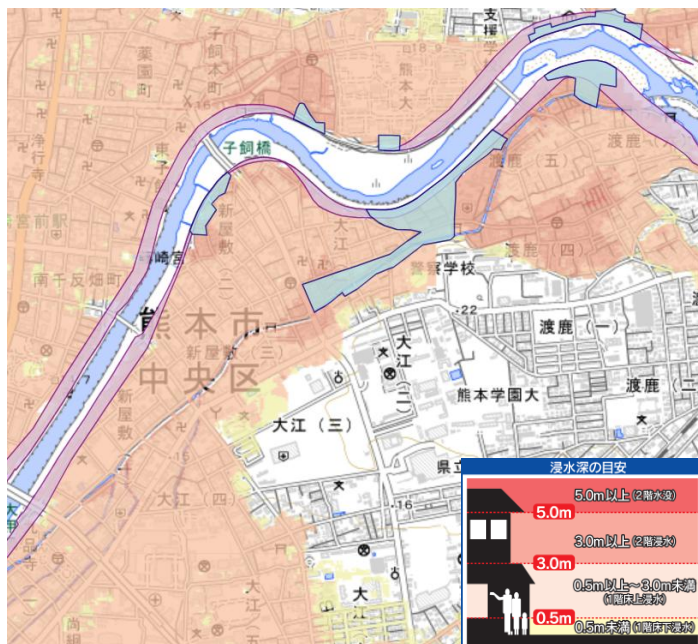
2 大江校区のこれまでの災害

大江校区は過去に甚大な災害を経験してきました。昭和28年の白川大水害では**校区内で219人の犠牲者**を出し、地域に深刻な被害をもたらしました。

平成24年の九州北部豪雨では、大江校区において渡鹿地先からの堤防越水が大井手用水路に流入し一部区域で浸水被害が発生しました。

また、平成28年の熊本地震では震度6強を記録し、住宅や公共施設に大きな被害が発生しました。

さらに、熊本市ハザードマップによると、想定最大規模の降雨時には、最大で5メートルを超える箇所もあることが示されています。



【出典：熊本市ハザードマップ／中央区大江校区周辺】



【九州北部豪雨での被害状況】



【出典：熊本災害デジタルアーカイブ／熊本学園大学
外壁に亀裂が入り、窓ガラスが破損している様子
提供者：富士マイクロ株式会社】

3 現在の課題

現在、大江校区では防災力向上に向けた取り組みが進む一方で、次の課題が顕在化しています。

(1) 担い手不足

校区自治協議会、校区防災連絡会及び自主防災クラブの構成員の高齢化が進み、新規参加者の確保が困難な状況です。



(2) 防災意識の不足と次世代への継承

地域住民の防災意識が十分でなく、過去の災害教訓が若年層に伝わっていないため、災害時の行動に不安があります。

(3) 不十分な要支援者への対応

一人暮らし世帯や高齢者など、災害時に支援が必要な人への対応体制が不十分で、取り残しが懸念されています。



(4) 地域住民の交流の場不足

地域公民館の廃止により、活動拠点や財源の確保が難しくなり、今後の防災活動に支障が生じる可能性があります。

4 課題に対する取り組み

(1) 地区防災計画の策定（住民主体・17団体連携）

大江校区は白川に面しており、特に**水害のリスクが非常に高い地域**です。昭和28年の白川大水害や平成28年の熊本地震を教訓に、今年度、校区の居住者や事業者を中心に「**地区防災計画**」を策定しました。

策定には校区防災連絡会を中心に、学校・医療機関・金融機関・商業施設など**17団体**が参画する**策定委員会**を設置し、住民主体の参画を重視した計画づくりを進めています。

委員会は「**話し合いの場**」として位置づけられ、地域課題の共有と解決に向けた協議を行います。



【地区防災計画策定委員会発足式】



【構成団体との話し合いの場】

4 課題に対する取り組み

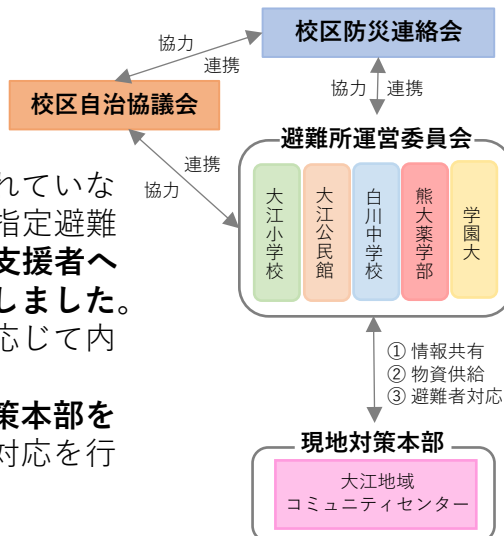
(2) 避難所運営体制の構築

(5か所の避難所、マニュアル作成、模擬訓練)

担い手不足の課題に対応するため、これまで設置されていなかった避難所運営委員会を令和6年度に校区内5か所の指定避難所等に設置し、新規メンバーを参入するとともに、要支援者への対応を踏まえた避難所開設・運営マニュアルを作成しました。

さらに、模擬訓練を通じて実効性を検証し、必要に応じて内容の見直しを進めています。

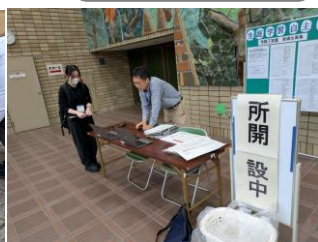
災害時には大江地域コミュニティセンターに現地対策本部を設置し、情報共有・物資供給・要支援者を含む避難者対応を行う体制を構築しました。



【R7震災対処訓練（第二部）】
～熊本大学大江体育館～



【R7震災対処訓練（第二部）】
～大江交流室・公民館～



(3) 災害伝承と防災教育（浸水標識設置、AR教材活用）

昭和28年の白川大水害の教訓を次世代に伝えるため、令和7年2月に「まるごとまちごとハザードマップ（浸水標識）」を地域内に設置しました。

大江小学校の児童が参加し、浸水を仮想したAR教材（※）の活用や大江校区4町内の自治会長による体験談等、様々な手法により児童への防災教育を実施しました。

災害伝承と自助意識の醸成を目的として、学校・行政・地域が連携した取り組みです。



【浸水標識設置の様子】



【浸水標識設置箇所を協議中】



【白川大水害体験談】



【浸水標識設置時の講話】

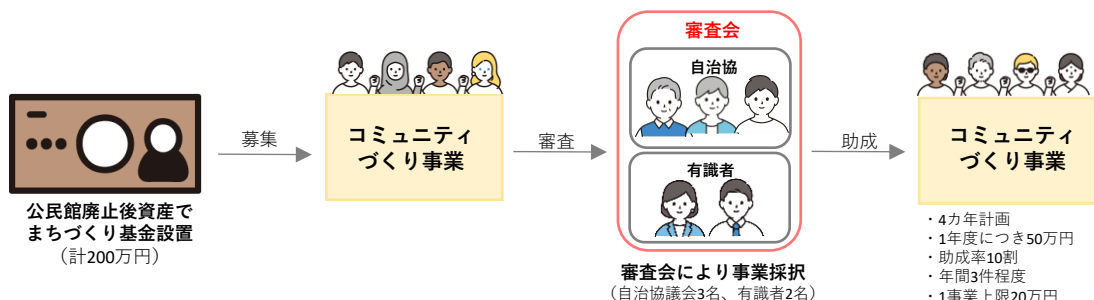
（※）AR教材：現実にある風景（今回は体育館）に浸水などの災害状況を重ねて表示し、防災行動を学習するための教材

4 課題に対する取り組み

(4) 地域公民館廃止後の資産活用（まちづくり基金による助成）

地域公民館の廃止により、地域活動の拠点と財源が失われる課題が生じました。これに対応するため、大江校区自治協議会が承継した資産を「**まちづくり基金**」として**制度化**し、地域福祉向上事業や防災活動に対して全額助成する仕組みを創設しました。

令和7～10年度の4カ年事業として、年度ごとに50万円の予算を確保し、年間3件程度の事業に対して大江校区自治協議会が最大20万円を助成しています。**審査会を設置**し、透明性を確保しながら多様な団体が活用できる制度設計としました。



※地域公民館廃止後の防災活動拠点は前述4（2）の通り、大江地域コミュニティセンターに移しました。

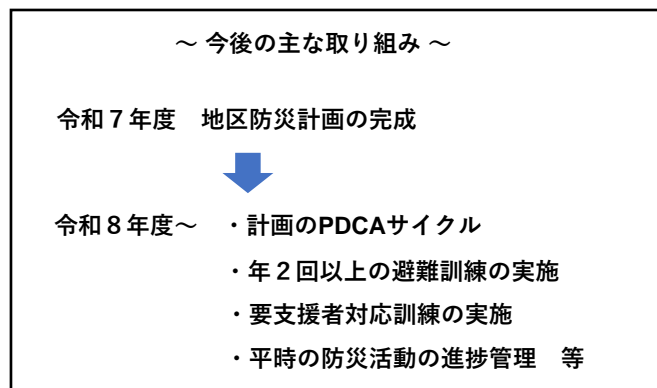
5 今後の取り組み

今後、策定された地区防災計画に沿って、実効性と持続性を兼ね備えた体制整備を進めます。

特に、防災訓練では、避難所開設・運営マニュアルに基づき**避難訓練を年2回以上実施**し、**参加者数500人**を目標とします。訓練後には評価と改善を行います。

また、地域住民の防災意識向上を目的とした**啓発活動を継続**し、学校・行政・地域が連携して幅広い世代の参画を促します。

さらに、女性や若年層の参加促進、教育機関・消防・医療関係者など**専門人材の協力**を得ることで、組織力の底上げを目指します。



画図校区防災の取組

地域名：東区画図校区

1 地域の概要

※R7年4月時点

- 【地域人口】 14,196人（男：6,696人 女：7,500人）
- 【世帯数】 6,364世帯
- 【高齢化率】 27%（65歳以上）
- 【地勢的な特徴】 東区の南西部に位置し、嘉島町と隣接しており、北側に通称東バイパスが、西側に通称浜線バイパスの2本の主要幹線道路が通っている。北東部には上江津湖・下江津湖があり、南東部は木山川と加勢川が合流し、南を流れている。
- 【想定される災害】 北甘木断層・水前寺断層による「地震」、加勢川・秋津川や内水氾濫等による「水害」の災害リスクが高い。
- 【その他】 指定避難所として、画図小学校・環境総合センターがある。



2 これまで地域で取り組んできたこと (1) 今までの取組

- 平成30年 7月 画図校区防災連絡会設立
画図小学校・環境総合センター避難所運営委員会設立
- 令和 5年11月 託麻南小学校避難所運営委員会防災訓練視察
- 令和 6年 3月 画図小学校で校区防災訓練実施
7月 HUG（避難所運営ゲーム）体験会実施
9月 地区防災計画策定着手
12月 避難所開設・運営マニュアル完成
- 令和 7年 2月 地区防災計画策定
9月 画図校区2町内で民生委員児童委員による防災講座
10月 画図校区11町内
「地区防災計画」フォローアップ研修

HUG 体験会



民生委員による防災講座



(2) 画図校区地区防災計画

◆東区で3つ目となる地区防災計画策定

画図校区の地区防災計画は、【記録編】と【防災マップ・校区ルール】の2つを基本とした構成である。【防災マップ・校区ルール】には、校区内の危険箇所だけでなく、情報収集用二次元バーコードを記載し、災害時など情報収集に活用していただけるものとなっている。裏面には「やることリスト」と「マイタイムライン」が掲載されている。これを全世帯に配布し、校区の今後の事業計画の共有や住民の防災意識向上を図っている。

熊本市防災会議の承認を得て、熊本市地域防災計画に位置付けられている東区内3事例目の地区防災計画であり、熊本市のホームページにも紹介している。



画図地区防災計画
【記録編】



画図地区防災計画
【防災マップ・校区ルール】



ワークショップ

◆「作って終わりではない！」11町内でフォローアップ研修開催

策定翌年度の令和7年(2025年)10月24日に、11町内自主防災クラブが、早速「地区防災計画」フォローアップ研修を開催した。

校区防災連絡会会長も務める久保田自主防災クラブ会長は、『地区防災計画は作っただけでは意味がない。「やることリスト」に基づいて、実際に取り組むところまでやっていかなくてはならない。』という意向のもと、まずは自身の町内をモデルとし、住民との意見交換の場を設けた。令和7年8月豪雨の際に明らかになった地域の課題などを各班に分かれて共有し、実施すべき対策の優先順位を定めた。

結果、11町内が次年度に取り組む「やることリスト」として、「日ごろからコミュニティづくりを進めていくこと」とし、まずは「回覧版を回す範囲」から取り組んでいく予定である。

東海大学生の協力のもと、地域住民で「くまもとアプリ」をダウンロードし、自ら防災情報を入手する意識づけも行った。



ワークショップの様子

3 現在の課題と今後の取組

(1) 現在の課題

校区の大部分が氾濫平野からなる低地であり、加勢川と秋津川の合流部付近に校区が位置することから、水害リスクが存在する。

特に校区南部は標高が低く、周囲を堤防や自然堤防などの微高地に囲まれていることから、一度冠水すると長期間浸水する可能性がある。

高齢者率は全国平均と比較すると低い割合であるが、独居高齢者世帯割合は市・区平均よりも高いため、要支援者を含む高齢者に対する、災害時の十分な備えが必要になる。

(2) 今後の取組

地区防災計画では、校区防災連絡会・避難所運営委員会の事業計画となる「やることリスト」と、校区全員で取り組む「校区ルール」を設定している。この中で、住民は、くまもとアプリのダウンロードなど容易にできるものはすぐに着手し、「回覧板を回す範囲での共助」が実現できるように関係づくりや連絡手段の検討から取り組んで行く予定である。

また画図校区は範囲が広く、町内ごとにも地域特性があるため、各町内で防災について話し合う必要がある。11町内で行ったフォローアップ研修を参考に、各町内でも防災に取り組んでいきたい。

4 参考資料など

画図校区地区防災計画

https://www.city.kumamoto.jp/kiji00349119/3_49119_456622_up_mcyjh28r.pdf

内閣府防災情報のページ「みんなでつくる地区防災計画」

[みんなでつくる地区防災計画：防災情報のページ - 内閣府](#)

西区 池田校区の取組

地域名:西区 池田校区

1 地域の概要 (R7.11.1現在)

【地域人口】13,339人 【世帯数】7,209世帯

【町内数】14町内 【高齢化率】29.3% ※熊本市平均 27.6%

【地勢的な特徴】

池田校区は熊本市西区の北東部に位置し、東側には丘陵地帯に住宅街が広がっている。西側には井芹川が流れ、その周辺の低地では稲作が行われている。校区内には旧国道3号線やＪＲ鹿児島本線・九州新幹線が南北に通っており、上熊本駅や崇城大学前駅などが立地する交通の要衝である。

【想定される災害】

大雨による土砂災害や地震による急傾斜地の崩壊、井芹川の氾濫による浸水など



2 これまで地域で取り組んできたこと

【課題】

池田校区は、丘陵地帯や川沿いに住宅地が広がり、がけ崩れや浸水など町内ごとに災害リスクが異なるため、防災意識に差があり、校区全体で一体的な防災活動を進める体制づくりが難しかった。さらに高齢者世帯も多く、災害時に迅速な対応をとるための仕組みづくりや、防災士などの担い手の人材育成、ハザードマップや避難情報の共有体制の整備が課題であった。

【課題、解決に向けた取り組みの概要】

①高齢者世帯の孤立防止と安否確認体制の構築

見守り体制の構築に寄与したふれあいランチ事業の実施：地域ボランティアが中心となり、一人暮らしの高齢者の孤立防止対策として月2回手作り弁当を配布し、あわせて健康管理と安否確認を実施。令和6年度に事業は終了したが、約28年間で延べ約670回、約1万食を提供し、災害時に迅速な情報把握や、安否確認体制の基盤づくりに貢献。

②防災体制の構築と担い手育成

地区防災計画策定に向けた研修開催：令和7年7月、熊本県危機管理防災課の講師を招聘し、研修会を実施。自治会長など約40人が参加し、計画の必要性や作成手順及び人材育成について学習・協議。防災士資格取得の推進：校区全町内に防災士を配置することを目標に、熊本地震以降、毎年度複数町内で資格取得講座申込を継続。

③災害リスクの共有と町内間の防災意識の差の解消

地域版ハザードマップの作成推進：校区自治協議会の場合などを活用し、区役所担当者から作成方法や更新のポイントに関する情報提供を受けながら既存6町内のハザードマップを更新し、未作成町内には新規作成を推進。

④防災意識の向上と実践力強化

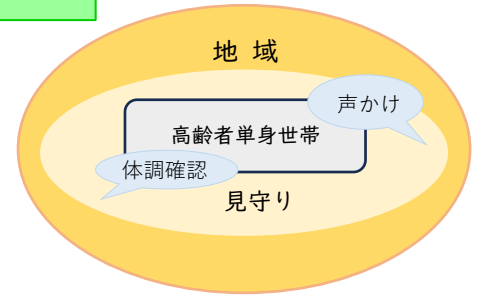
親子防災教室・防災訓練の実施：小学生と保護者対象の「親子防災教室」を開催し、家庭での防災意識を高める機会を設定。特に災害リスクが高い町内での防災訓練では、初期消火や避難誘導体制を強化。



2 これまで地域で取り組んできたこと

【特に工夫してきた点】

- ・ふれあいランチ事業で築いた一人暮らしの高齢者との顔の見える関係性づくり
対面での手渡しを大切に、「声かけ」「体調確認」を実施した。孤立防止と見守り体制を強化し、災害時の安否確認ネットワークの基盤を形成した。



- ・地域一丸で進める防災力強化

「今せんといかん！」を合言葉に、地域一丸となるきっかけづくりとして防災研修を実施した。地域で行動する大切さを学び、今後の目標設定や地区防災計画の作成に向けて取り組みを開始した。

- ・防災士の資格取得推進

全町内防災士の配置を地域の目標として位置づけ、資格取得を推進してきた。毎年度複数の町内が資格取得に取り組むことで、防災リーダーの担い手を育成し、校区全体で防災力を底上げする体制づくりを進めた。

- ・親子で学び、備える防災の力

講師に「歌う防災士」を招き、身の守り方や非常時に持出するものなど歌やゲームを通して楽しく学んだ。さらに「やさしい避難所づくり」をテーマに、課題ごとの避難所を想定して、グループで話しあい、親子で実践的な知識を深めた。

- ・防災力の向上と実践力を強化

消防署と連携し、避難誘導や初期消火訓練を継続的に実施した。講話だけではなく、119番通報手順の確認や消火訓練を行い、地域の防災力と実践力の底上げを図った。

○池田校区における自主防災活動

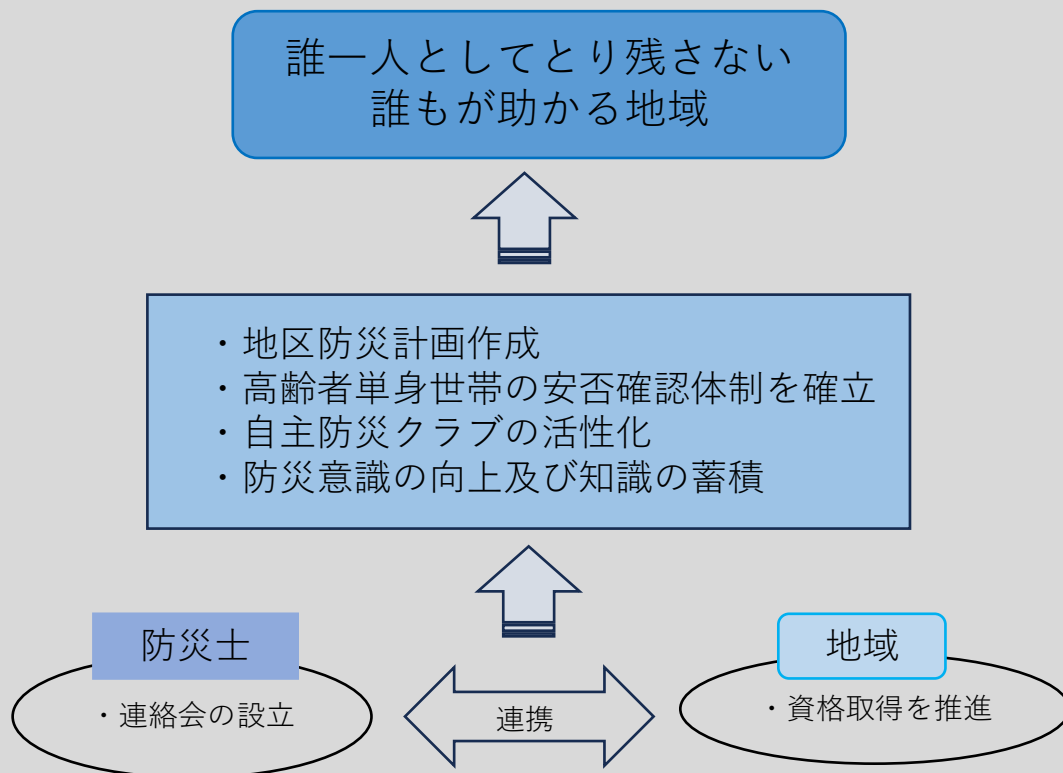
実施年度	実施団体	実施内容	参加者数
令和5年度	6・2町内	消火器取扱消火訓練・救急救命講習・防災講話	80人
	9町内	救急救命講習・DVD視聴VR体験・避難計画説明	60人
	7町内	消火器取扱消火訓練・救急救命講習・防火講話	240人
令和6年度	3町内	消火器取扱及び消火訓練・防災講話（ライブ 119）	50人
	12町内	避難及び消火器取扱消火訓練・救急救命講習（AED）	70人
	青少協	第1回 池田小学校親子防災教室（4、5、6年の児童と保護者）	約210人
令和7年度	自治協	校区防災研修会	約40人
	青少協	第2回 池田小学校親子防災教室（4、5、6年の児童と保護者）	約230人
	12町内	町内マンションにおける避難訓練（予定）	

3 現在の課題と今後の取組

【目指す校区のあり方】

～誰一人としてとり残さない、誰もが助かる地域へ～

課 題	今後の取組
高齢者単身世帯が約360世帯あり、災害時の安否確認体制の維持・強化に向けた見直し (高齢化率が高く、平常時の見守りはある程度できているが、災害時に即時対応できる仕組みを再検討)	ふれあいランチ事業の終了に伴い、民生委員による年間約1,500回の定期訪問を活用し、訪問時に安否確認や災害時の連絡方法を確認する。 災害時に迅速な情報把握ができる体制を維持し、再度整えるとともに、こうした活動を担える人材を育成し、地域全体で防災力を高める。
自主防災クラブ活動が低迷 (自主防災クラブ活動が低迷し、地域としての危機感を持っている)	地域をあげて防災士資格取得を推進し、各町内に担い手育成を継続していく。 令和7年度中に校区防災士連絡会を設立し、自主防災クラブと防災士が連携する活動体制を確立。 自主防災クラブの活性化を図りながら、令和7年度地区防災計画の基礎を整え、令和8年度の完成を目指し、地域防災活動の再活性化につなげる。



城南校区の取り組み

地域名：南区城南校区

1 地域の概要

- 【面積】 1.7km²
- 【地域人口】 5,730人（令和7年4月1日現在）
- 【世帯数】 3,092世帯（令和7年4月1日現在）
- 【高齢化率】 30.3%（65歳以上）
- 【地勢的特徴】
城南校区は南区の中央部に位置し、校区のほぼ中央に国道3号が縦断している。
南側には加勢川、緑川が流れている。
- 【想定される災害】
河川の氾濫、地震
- 【校区内の建物がある指定緊急避難場所】
南部まちづくりセンター・公民館、城南小学校



2 これまで地域で取り組んできたこと

【課題】
城南校区に在住する外国人の数が南区管内で3番目に多いため、外国人の方への災害時に備えた避難場所の周知が必要である。

【課題解決に向けた取り組み】
城南校区に在住する外国人向けの避難所案内用チラシを作成した。
チラシでは「やさしい日本語」を使用しており、QRコードを読み取れば24か国の言語で説明があり、グーグルマップで避難所までの経路を示す。
※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



災害時の避難所の案内です。
災害が起きた時の避難所は城南小学校か南部公民館です。
近い方に避難してください。
行き方は下のQRコードを読み取ってください。

Here is a guide to evacuation centers in the event of a disaster.
When a disaster occurs, the evacuation center is Jonan Elementary School or Nambu Community Center.
Please evacuate to a nearby location.
Please scan the QR code below for directions.

日本語（自動判定）

English

【課題】
地域版ハザードマップを全町内で作成しているが、10年以上経過している町内もあり、現状と異なる部分も多くみられた。

【課題解決に向けた取り組み】
熊本地震や大雨による災害等の経験をもとに、新たな危険個所を地域版ハザードマップに掲載し、地域住民に認知してもらうことで防災意識の向上に繋がった。

3 現在の課題と今後の取組

【課題】

城南校区は浸水の危険性が高く、早期の避難が必要な地域であり、災害時の高齢者等の避難が課題である。

【課題解決に向けた今後の取り組み】

熊本市社会福祉協議会及び民生委員の方々と連携し、災害発生時に時系列で定めた防災行動計画（マイタイムライン）の作成を進めたいと考えている。

4 参考資料など

【これまでの訓練実施状況】

〈令和6年度〉	5月11日	地域初動対応訓練
	11月24日	震災対処訓練 炊き出し訓練、外国人に向けた避難所案内、心肺蘇生法、 防災講話 約170名参加
〈令和7年度〉	5月10日	地域初動対応訓練
	10月9日	地域版ハザードマップの更新
	11月9日	震災対処訓練 炊き出し訓練、心肺蘇生法、防災講話、防災ゲーム 約200名参加



川上・西里・北部東校区の取組

地域名 北区川上・西里・北部東校区

1 地域の概要(R7.4.1現在)

【地域人口】 川上:9,853人 西里:7,310人 北部東:11,327人

【世帯数】 川上:4,626世帯 西里:3,355世帯 北部東:5,129世帯

【高齢化率(65歳以上)】 川上:26.8% 西里:30.3% 北部東:24.6%

【地勢的な特徴】

川上校区は、北区の中央に位置し、校区を縦断する国道3号線を中心に発展した校区である。

西里校区は、北区の北西部に広がる丘陵地帯で、校区の中心には井芹川が流れ、自然環境に恵まれた地域である。

北部東校区は、北区中央部分の東側に位置し、合志市に隣接している。校区の南側を国道387号（通称：飛田バイパス）が走っており、近隣には温泉施設や商業施設が数多く立地しているが、校区北側には田畑が広がっており、緑豊かな自然にも恵まれている。



【想定される災害】

地震、河川の氾濫、土砂、台風、洪水、冠水

【校区内の指定避難所】

川上校区: 川上小学校、北部中学校、北部まちづくりセンター・公民館

西里校区: 西里小学校、熊本市食品交流会館

北部東校区: 北部東小学校、勤労青少年ホーム

2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと

【課 題】

○大規模災害に備えた避難所運営体制の強化

各校区の防災連絡会、避難所運営委員会の立ち上げ以降、避難所開設・運営に関する知識や経験の共有が十分に進んでおらず、各種訓練を計画して、速やかに大規模災害発生に備える必要性があった。

○災害時に活躍する消防団員などの担い手不足

地域防災力を維持するためには、消防団員や自主防災組織の担い手確保が不可欠であるが、少子高齢化や働き方の多様化により、若年層や現役世代の参加が難しくなっている。

○こどもたちへの防災教育の推進

次世代への防災意識の継承は、地域の安全を守るうえで重要であり、学校教育だけでなく、家庭や地域での体験型学習を通じて取り組んでいく必要がある。しかし、具体的にどのように防災教育を進めていくのが課題となっている。

2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと(続き)

【課題解決に向けた取組①】

○避難所運営訓練について

3校区全ての避難所において避難所運営マニュアルを作成し、震災対処訓練時に開設訓練等を実施している。

川上校区では、体育館での避難所運営訓練に加え、車中泊避難を想定した訓練も実施。訓練では、緊急車両の駐車スペースを確保したうえで、運動場に何台の車を駐車できるかを確認し実践できるよう対応している。

西里校区では震災対処訓練時に徒手（としゅ）による搬送訓練を実施し、地域住民が負傷者を安全に搬送するための技術及び垂直避難の要領を学んでいる。

北部東校区では、指定避難所である北部東小学校と勤労青少年ホームが近接していることから、施設ごとに要配慮者などの避難対象を振り分ける訓練を実施している。



川上校区

西里校区

北部東校区

○北部地域防災力向上研修の開催

対象 (R4年度) 町内自治会長、地域公民館長
(R5年度、6年度) 避難所運営委員会

内容 (R4年度) 避難所の仕組み、災害時の地域公民館としての役割
(R5年度) 避難所運営 (HUG) ゲーム
(R6年度) 秋津校区の災害に学ぶ防災講演会・ワークショップ

熊本地震時に被災の大きかった秋津校区より、校区防災連絡会、秋津1町内自治会から約15名を講師に招き、さまざまな意見交換を行った。



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと(続き)

【課題解決に向けた取組②】

○地区防災計画策定（年度内完成）

各校区の防災連絡会を中心としたメンバーが連携して計画策定に取り組んでいる。
熊本保健科学大学 防災・減災教育支援室の佐々木教授を講師に、防災士・PTAなど多様なメンバーで合同ワークショップを実施。

▶計画策定までの流れ

①地域特性や過去の災害を踏まえた課題整理

地理的条件や災害履歴を基に、地域ごとの防災課題を抽出。

②課題解決に向けた実施計画の検討

地域で取り組むべき具体的な対策や活動内容を協議し、計画をまとめている。

住民主体の策定により、防災意識の向上と災害対応力の強化に寄与している。

この策定作業をきっかけに、地域版ハザードマップの必要性を切に感じ、作成に着手した町内もある。

(R7.9.19 実施 各校区ワークショップ)



川上校区



西里校区



北部東校区

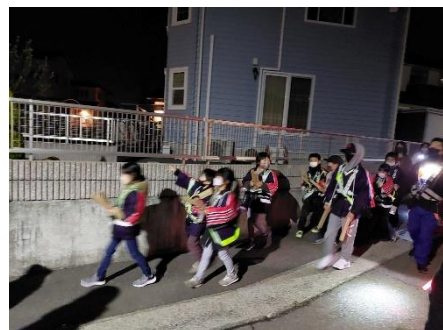
【課題解決に向けた取組③】

各校区における防災意識の向上への取組

○川上校区～消防団こども夜警～

同校区消防団では、約20年前からこども会などと連携し「こども夜警」を実施している。熊本地震時には、避難所のトイレ用水を学校のプールから供給する役割を担うなど消防団員が活躍したことで、消防団の重要性が一層認識されるようになった。

そこで、地震後には、火災予防や防犯、防災などの啓発活動をさらに強化しようと、こども用の「消防はっぴ」を製作し活動を継続している。この取組により、地域住民の防災意識の向上を図るとともに、こどもたちに消防活動を身近に感じてもらうことで、「未来の消防団員」の確保にもつなげている。実際に、以前こども夜警に参加したきっかけで、消防団員となった事例もある。



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと(続き)

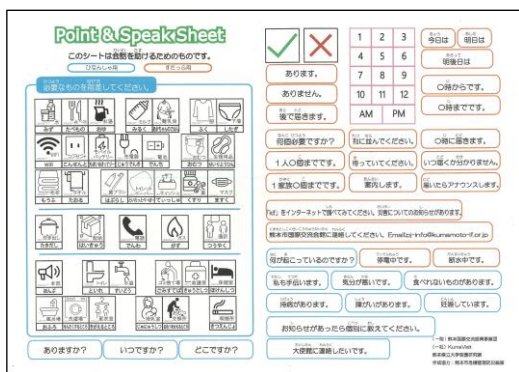
○西里校区～小学生・外国人との防災交流会（R7年度）～

地域で急増する外国人と小学生が交流をしながら防災を学ぶことで、互いの文化を理解し合い、災害時に支え合える関係づくりを促進した。

対象 同校区の小学生・保護者を含む住民と外国人（約70名）

内容 自然災害を学ぶ講話、避難所や指差しシートについての説明、防災食の試食

（R7.7.6 スポーツ×防災交流会 開催）



→ 北区の全指定避難所に
外国人向けの指差しシートを設置
(避難所初動運営キットに常備)

○西里校区～PTCA※主催による防災キャンプ（R7年度）～

児童が災害時に必要な知識や判断力を楽しく身につけるとともに、防災の重要性を体験的に学ぶことができた。

※ 西里小学校では、家庭と学校だけでなく地域とともにこどもたちを育てようと、これまでのPTA（Parent-Teacher Association）活動にC（Community）を加えたPTCAで魅力的な取組を進めている。

対象 西里小学校6年生

内容 救急法～心肺蘇生法、担架作り、消火器体験等～（講師 熊本市北消防署）

防災クロスワード（講師 熊本県防災アドバイザー）

災害時の口腔ケア（講師 西里校区在住の防災士・8020推進員）

大学の授業を体験～幸福学から防災を学ぶ～（講師 九州看護福祉大学教授）

防災食体験（防災食を実際に食べ、災害時に備える重要性を学ぶ）

（R7.9.20 防災キャンプ開催）



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと(続き)

○北部東校区～PTA主催による「まなぼうさい」～

北部東小学校PTA執行部と地域団体が協力し、防災学習イベント「まなぼうさい」を開催している。この取組は、こどもたちが楽しみながら防災について学ぶことを目的としており、地域全体の防災意識向上にもつながっている。

イベントでは、水圧扉体験や給水体験、さらに消防局によるVR防災体験など、実際に体験しながら学べる多彩なプログラムが用意され、これらの体験を通じて、こどもたちは災害時の対応や安全確保の重要性を理解し、地域の防災力強化に貢献する機会となっている。

(R6.11 まなぼうさい開催)



○北部東校区～青少年健全育成協議会主催「北部東プレイパーク」での防災体験～

同校区青少年健全育成協議会では、毎年「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした「プレイパーク」を開催。戸外での遊びを通して、こどもたちの協調性や自主性、創造性を養い、こどもが自分で「やってみたい」と思う遊びをつくる遊び場を展開している。

北部東プレイパークでは、災害時に役立つ知識や技術を、楽しく体験できる内容を取り入れ、地域全体の防災意識向上を目指している。

校区在住の防災士の指導のもと、無水カレーの調理体験を通して水不足を想定した調理方法を学んだり、新聞紙で作るスリッパの工作を行い、避難所での生活に必要な工夫を体験。これらの取り組みは、こどものみならず大人まで防災を身近に感じるきっかけとなり、地域の交流促進や自主防災活動への関心を高めることにつながっている。

(R7.2.23 北部東プレイパーク開催)



3 現在の課題と今後の取組

【現在課題として捉えていること】

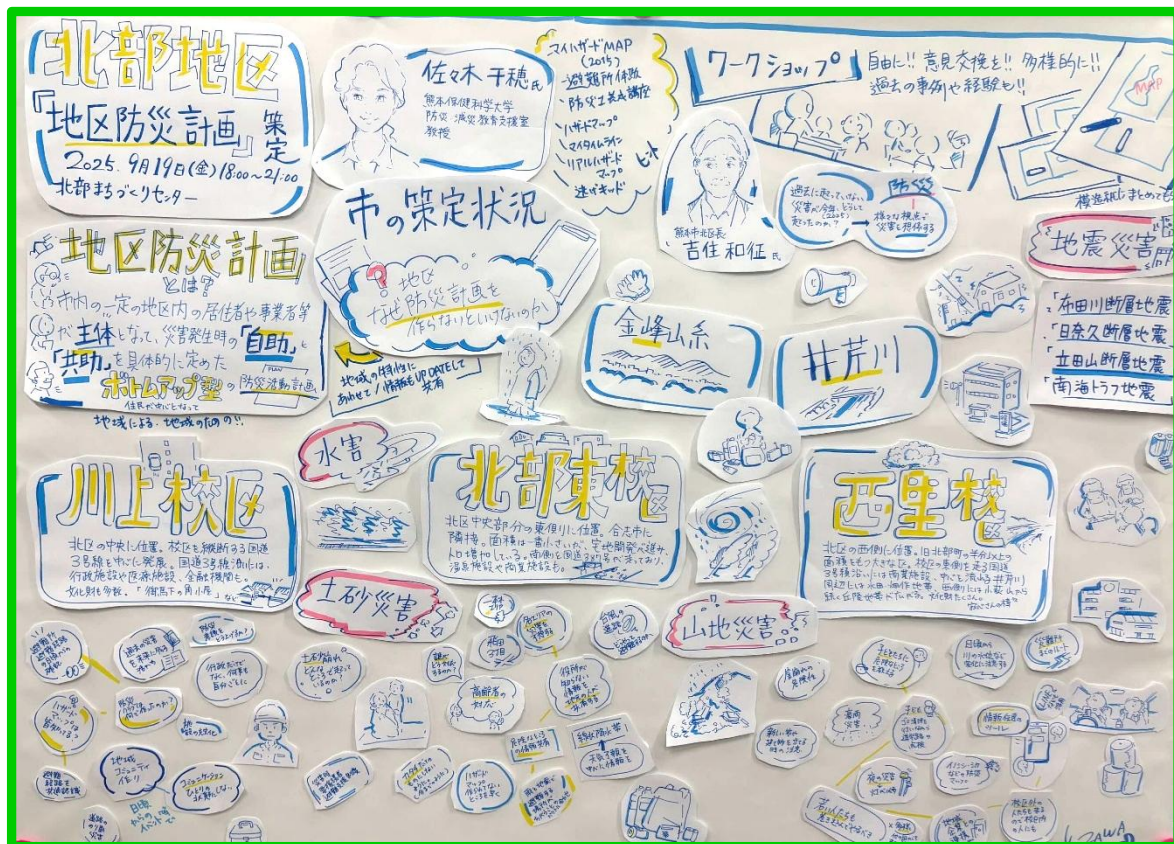
- コミュニティの希薄化による連携の難しさ
- 自治会未加入世帯への情報伝達
- 要支援者への支援体制の強化

【課題解決に向けて今後取り組んでいきたいこと】

- 若い世代や企業の従業員など、防災について関心がない層に対して「災害を知ること・地域を知ること・災害が起こりそうな時や起こった時にどうすべきか」について興味を持ち、自ら行動できる人材を育てる。
- 川上・西里・北部東地区防災計画の活用
→地区防災計画内の地域課題や行動計画に応じた防災活動を展開し、継続的な見直しを行う。
- 地域版ハザードマップを作成し、危険箇所等の周知を行う。
- LINE等のSNSを活用した危険情報の共有を行う。

4 参考資料

OR7.9.19 ワークショップで各校区から出た意見をイラストでまとめたグラフィックレコーディング (TOMMY-ZAWA氏)



今後、幅広い世代に「地区防災計画」を知ってもらうために、北部管内のイベント等で活用する。 展示：北部まちづくりセンター

【 お問い合わせ 】

政策局危機管理防災部防災対策課	0 9 6 - 3 2 8 - 2 3 6 0
中央区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 2 8 - 2 6 1 0
東区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 6 7 - 9 1 2 1
西区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 2 9 - 1 1 4 2
南区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 5 7 - 4 1 1 2
北区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 2 7 2 - 1 1 1 0